

研究会の検討の方向

1 全体の視点

高齢者も前期 / 後期、同居 / 一人暮らし等の事情によりニーズは大きく異なり、障害者も障害の種類、程度等の事情によりニーズは様々である。ICT利活用の推進の在り方を検討するにあたり、高齢者・障害者のこのような多様なニーズをどのようにして把握し、反映していくべきか。

2 高齢者・障害者のICT利用に関する問題

高齢者・障害者がICTを容易に利用できるようにするためには、機器やサービスをユーザビリティ（使いやすさ）やアクセシビリティの高いものとする必要がある。政府や民間団体による指針づくり、啓発活動等によるこれまでの成果や欧米の動向も踏まえ、機器やサービスのユーザビリティ（使いやすさ）やアクセシビリティを高めるには、どうすればよいか。

- ・ 高齢者や障害者にとっては、簡単な操作・入力手段でICTが利用できるようになることが理想であるが、障害に応じて多種多様な手段が求められるのではないかな。
- ・ 様々な技術を開発し、それが広く社会に受け入れられるようになると、結果的に障害者や高齢者にも使いやすいものとなるのではないかな。
- ・ 利用者の限られる高齢者・障害者向け機器をいかに事業として成立させるかが課題である。
- ・ 高齢化が進み、以前は弱者と捉えられていた高齢者が、今後はビジネスの対象となり、ICTのアクセシブル化が重要な課題となる。
- ・ 事業者として市場の広がりを見るとユニバーサルデザインの視点が重要となるが、高齢者・障害者は千差万別であり、各者のバリアを洗い出すという視点も重要である。
- ・ アクセシビリティのガイドラインを作っても、運用方法について議論しなければ、有効に機能しない。
- ・ インターネットや携帯電話の普及によって、聴覚障害者はコミュニケーションが容易になったが、不十分な情報保障によりIT講習会が受けられないといった問題もある。

高齢者・障害者にとって便利な機器やサービスが提供されるようになった場合、その情報が高齢者・障害者やその支援者に迅速に共有されることが望ましいが、現状をどのように評価するか。また、今後の政策的課題をどのように考えるか。

高齢者、特に一人暮らしの高齢者がICTを容易に利用できるようにするためには、パソコンの使い方等を分かりやすく教えることのできるサポート体制が重要であるが、現状をどのように評価するか。また、今後の政策的課題をどのように考えるか。

- ・ シニアネットでは、パソコンのできる人が初心者に教えているが、サポート体制が十分でない。利用ソフトが人によって異なると、対応しきれない。
- ・ 高齢者・障害者向け製品の利用者に対する、企業のサポート体制が課題である。

障害者がICTを利用するためには、利用を支援するソフトや機器が必要である。障害に合った適当なものの入手が困難である等問題が多い現状であるが、今後、どのように対応すればよいか。

特に障害者の場合、ICTを容易に利用できるようにするためには、パソコンの使い方等を分かりやすく教えることができるだけでなく、利用者に応じた支援ソフトや機器の手当もできるようなサポート体制が必要であるが、現状をどのように評価するか。また、今後の政策課題をどのように考えるか。

- ・ パソコンボランティアなどの中間ユーザが支援しやすい仕組みを考えることが重要である。
- ・ 高齢者・障害者向け製品の利用者に対する、企業のサポート体制が課題である。

3 高齢者・障害者のICT活用に関する問題

ICTをツールとした就労、起業、ボランティア等の積極的な社会参加は、高齢者・障害者の生きがい創出につながるとともに、社会全体の活性化にも貢献すると考えられる。このような高齢者・障害者によるICTを活用した積極的な社会参加を阻害する要因は何か。また、阻害要因を除去するための方策をどのように考えるか。

- ・ ICTをいかに生活の中に活かせるか具体的な提言をすることが重要である。障害者、高齢者のICT利用をNPOと協力しながら考えていくことも有意義である。
- ・ 技術面での障害者の就労支援や学習支援が今後の課題である。

これまでの政府の取組は、高齢者・障害者に使いやすい機器・サービスの開発への支援やウェブサイトのアクセシビリティ確保等、主として高齢者・障害者が「情報を受信する」ことのバリアを軽減、解消することを目指してきた。今後は、高齢者・障害者が自ら「情報を発信する」ことへの支援も強化していく必要があると考えられるが、このような活用支援の在り方をどのように考えるか。

- ・ これまでアクセシビリティといえば、情報の受信について議論されることが多かったが、本研究会では高齢者や障害者による情報発信についても議論していく必要がある。

4 今後のICT社会の展望と高齢者・障害者

新技術・新サービスの登場や電子政府・電子自治体の進展等今後のIT社会を展望し、高齢者・障害者のICT利活用の推進の在り方をどのように考えるか。

- ・ 早急に議論が必要な課題として、e-Japan 政策の中でいかにユニバーサルデザインを推進するか、いかに教育のユニバーサルデザイン化を進めるかの2点が挙げられる。

高齢者のICT利用が進まない理由の一つとして、魅力的なコンテンツやサービスが少ない等の要因により、現時点では、ICT利活用のメリットが感じられないことが挙げられるが、今後の見通しはどうか。また、今後の政策的課題をどのように考えるか。